



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 76 号

-
- | | |
|------------------------------|-----------------------------------|
| ・発行日 / 2008 年 8 月 25 日 | ・発行所 / クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局 / 〒422-8053 | ・Tel / Fax 054-283-9317 |
| 静岡市駿河区西中原 2 - 7 - 63 - 1001 | ・e-mail / cnecc-kk@mail.wbs.ne.jp |
| 草野計雄方 | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/ |
| ・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994 | |
-

「その実が残るように」

(新約聖書 ヨハネによる福音書 15 章 16 節 ~ 17 節)

理事長 木ノ内 一雄

科学者アインシュタインは神について次のような疑問を投げかけています。「もしこの存在者が全能であれば、全ての人間の行動、思想、また人間の感情と希望を含む全ての出来事が、この存在者の仕業です。人間の行動と思想に対して本人の責任を問うことは、どうしてあり得るのでしょうか。罰と報いを与えることによって、ある意味では神がご自分を裁くこととなります。神に帰すべき善と義がこれと両立できるのでしょうか」。

この問いは神の絶対的主権を信じる多くの教会とクリスチャンにとって大きな挑戦です。神はこの天と地の造り主です。この世を保持し、歴史を支配し、わたしたち人間もまた御心のままになさいます。

全てが絶対者である神の御心のままにあるなら、この世の全ての悪もまた神の支配下に置かれていることとなります。今日、アフリカは世界で一番貧しいと言われているますが、その多くの問題は、かつて欧米列強が自国の都合で国境線を引き、農作物を割り当て、資源を搾取したことにありと指摘されています。その責任もまた究極的に神に求められることとなります。

同時に、このような欧米諸国に代表される利己的な人たちだけでなく、アフリカに愛の手を差し伸べる多くの人々がいます。これもまた人を通してなされている神の働きといえます。そして、わたしたちのガーナへの援助も僅かではあってもその一つであればと願っています。

わたしたちは神の業やご計画の全てを理解することは出来ませんが、聖書をとおして多くのことを知らされています。神と人とを愛するその働き人の中に、神の「選び」があると信じます。神の働きは永続することにその特徴があります。その働きこそ愛であって、「新しい天と新しい地」に引き継がれるものです。

ガーナ プロジェクト 2007 年度事業報告

アモス・バンマリグ師から送られた報告写真です。
クリスチャン パートナーズから 2007 年度中に 26 万 6 千円が送られました。

第 75 号 2、3 ページの木ノ内和美理事の紹介文と一緒にご覧ください。



建設中のチブームバンジム訓練センター
(青少年の職業訓練施設)：日本からの最初の支援金もこの建築に当てられました。



福音宣教：近隣の 3 地区で宣教の成果を挙げることができ、65 人もがイスラム教からキリスト教へと改宗しました。



婦人の職業訓練：バター作り、ピーナッツの栽培指導などを行なっています。



農業・養豚支援：順調なスタートを切ったものの、昨年秋から冬にかけて北部を襲った洪水によって田畑、人家に甚大な被害が出ました。



昨年の洪水の影響で、新鮮な水の確保が必要とされ、井戸を掘っているところです。



ヤマー養護施設：45 人の子ども達がありますが、施設が狭いので 30 人しか一緒に住めず、15 人は里親の家に寝泊りしています。もっと広い施設が必要です。

インドネシアの教育事情

宣教師 高橋めぐみ

里子たちや奨学生がどんな学校教育を受けているのかは、私たちが常に関心をもっている主題です。この度、高橋めぐみ宣教師に説明していただきました。

インドネシアでは4月から5月にかけては卒業試験の季節です。こちらでは小学校、中学校、高校と卒業試験があり、それにパスしないと卒業できないシステムになっています。試験は2回ありますが、1回目は全国共通試験で、2回目は各州共通の試験です。今年も特に問題になったのは全国共通試験で、ジャカルタなどの都市部とカリマンタンの田舎の学校ではかなりの格差があるにもかかわらず、同じレベルで試験されることです。それにはインドネシアの教育のレベルを向上させようという文部省の意図があると思いますが、合格基準は年々引き上げられており、このことはこちらの子供たちにストレスを与えています。

私の住むアンジュンガン周辺でも教師の数が足りない、教師の質が十分でないなど子供たちは学ぶべきことを十分学べておらず、そういうわけで去年の卒業試験では、誰も通らない、あるいは2~3人しかパスしない中学、高校があちこちに出てきました(去年の場合は再試験というのがありました)。こちらの子供たちの多くはホームステイして働きながら学校に通っています。彼らは学校に行きたいのです。しかし、教えられていないことが試験に出てきて答えられず、不合格になり次に進学できないのはかわいそうに思います。

それから去年もそうでしたが、多くの子供たちが合格できない現状の中、試験問題の漏洩がインドネシアのあちこちで起こりました。ニュースでも報道されましたが、学校ぐるみの漏洩で校長や教師たちが逮捕されていたり、携帯電話を使って不正がおこなわれていたり...(試験はマークシート方式)。この辺りでも、試験の時に「リスニングテストなのにテープが流れる前にもう解答していた」「難しい数学で時間が足りないのに、余裕で解答して外で騒いでいたグループがいた」「偽の正解情報が回ってきた」などという様々な報告を、子どもたちを通して聞きました。レベルの高すぎる卒業試験が、結果的に「不正」を助長することになっているのではないかと懸念しています。どこからどうシステムが変わっていったらいいのか分かりませんが、学びたい子供たちに、十分教育を受ける機会が与えられていくようにと願われます。



2005年に卒業したケジア・カルティカさんの後を継いで、奨学金を受けるようになったヨシュア・セラン君です。タンジュンブラ大学工学部森林学科在学中
(第69号5ページ参照)

私はヨシュア・セランです。牧師の家庭で4人兄弟の3番目です。神様がいつも私を養ってくださっていることを感謝します。主の働き人である両親の多いとはいえ収入ですが、タンジュンブラ大学森林科で6学期(3年生)の学びをすることができています。大学では学びの他に“Forester Ministry”という学部内のクリスチャンフェローシップのリーダーとして奉仕しています。それ以外にもペンテコステ教会、そしてYPP II 西カリマンタン支部のマハナイムという青年の交わりでも奏楽の奉仕をしています。もし神様が導いてくださるなら、この大学での学びを終えたあと、神学校で学びを続けたいと考えています。

現在の大学での学びでは実習で予定外の支出があり困ることがよくあります。私の学びのためにクリスチャンパートナーズの皆さんが支援してくださっていることを感謝します。奉仕と学びを両立させ時間を有効に用いることができるようにお祈りを願います。



私はイエニ・エステルです。1995年6月12日に生まれました。アンティオキア スンガイ ダウン インドネシア福音ミッション教会は、私が訓練を受けた教会です。私の将来の夢は教育者になることです。私は現在学校の寮に住んでいます。私の両親は農業をしていて、土地は肥えているのですが、なぜか収入が非常に低いのです。村の人たちの土地の耕し方などはまだ古く、たぶんそれは低い教育しか受けていないせいでもあるのでしょうか。村は町から離れていて、交通の便もほとんど無い状態です。そのせいで開発も難しくなります。スポンサーの皆様のご支援とお祈りで、私は勉強を続けることができ、大変感謝しています。親の経済力が足りないため、教育を受けられない友達は沢山いますから、ぜひご支援を続けてください。私たちは親よりも高い教育を受け、進歩したいと望んでいます。



私はリサ・アナス・テレシアです。シンパン市で1994年2月15日に生まれました。私の将来の夢は教育者/先生になることです。私は学校の寮で生活しています。親たちが住んでいる地域の土地は広く肥沃なのですが、なぜか親の生活は良くなりません。原因の一つは、私の両親を含め村人が小学校教育しか受けていないので近代的な農法が分からないからだと思います。それに、酒・タバコなどに浪費をするので、生活は一向に良くなりません。子供の教育費を払う余裕さえありません。支援してくださる方がたのご好意で、大変助かっています。私がまじめに勉強でき無事に卒業できますように、今の村の状態を改善する知恵が与えられるように、皆様のお祈りとご支援をお願いします。



僕はアントニウス・ラサです。センクアン村で1995年9月5日に生まれました。男子寮ナルワストで心身ともに育てられてうれしく思います。ケバウンのイングリ フィルダウス ミッション教会で、神様のことを知りました。僕の将来の夢は神さまのしもべとして医者になることです。僕の村は交通が大変不便なところにあります。村の人々は、宴会などで酔うまで飲み続ける習慣から抜け出ることがなかなかできません。親たちはほとんど小学校までしか教育を受けられませんでした。職業は大方農業で、宗教に関する活動は少ないです。僕はクリスチャン パートナーズの皆様から、勉強と宗教を学校で学べる機会を与えていただいて大変幸せです。神様に感謝いたします。三学期のテストがうまく答えられますように、さらに高得点で進級できますように、どうぞ祈ってください。僕が勉強を続けるには親の支えが必要です。どうか、両親が理解する心を持つように祈ってください。



僕はヘンドロ・リッキです。バトウ アンバルで1992年6月27日に生まれました。僕はカトリック信者の家庭で育てられました。僕の村の土地は肥沃で、作物の育ちが大変よいです。しかし、村までの交通が不便で、偶像を崇拝する習慣があり、人々の教育についての考え方が低いため、いつになっても村の生活は改善・進歩しません。宗教活動は少なく、村の人々は酒を沢山消費し、宴会も頻繁に行ないます。

スポンサーの皆さんのご好意によって、僕にこの学校で学ぶ機会が与えられ、お祈りで支えてくださいます。心から感謝いたします。三学期のテストがうまく答えられますように、無事に卒業できますように、それから教師になる夢が叶えられますように、どうぞ祈ってください。

バリ・カリマンタン

2008年5月23日(金)~30日(金)に行われたアンテオケ宣教会企画・主催のミッションツアーに参加することができました。一行はツアーチャプレン・アンテオケ宣教会総主事の安海靖郎先生、千金(ちがね)町子元インドネシア宣教師、K夫妻、友人同士で参加されたM姉、S姉、ツアーコンダクターの松崎姉、と私の8人、こじんまりとした小グループで、全員すぐに打ち解け、恵みの時を共有させていただきました。

1日目はバリのデンパサル空港で、成田組7人は関空からいらした千金町子先生と合流、お迎えの専用車でスミニャックのディアナプラホテルへ。広大な敷地の中に事務棟、食堂、ロジ、集会所などが点在し、鬱蒼とした木々や、よく手入れされた芝生やブーゲンビリアをはじめとして咲き乱れる花々...、まるで公園のようでした。ここに3泊、2日目はヒンズーの土地、バリに生まれた奇跡のクリスチャン村といわれ



ディアナプラホテルの中庭

るプリンピンサリ村に専用バスで移動、片道約3時

アンテオケ宣教会の奥秋健治先生ご夫妻が同行して下さり、車中いろいろとご説明いただきました。奥秋先生はバリ日本語礼拝の責任をもっておられますが、バリに居住している日本人女性の悩みを聞くということも大切な仕事としてうけとめておられるようでした。ヒンズー社会の中にとけ込めない彼女たち、結婚してもその大家族の一員として容易には受け入れられない彼女たちの孤独を思いました。



バリプロテスタント教会別館

さて、そのプリンピンサリ村の教会を訪問、アユブ牧師の歓迎を受け、立派な教会堂や別館をみせていただきました。教会建築といっても土地柄、屋根、柱(壁はありません)、説教台、鴨居の装飾にヒンズーの影響が色濃くみられました。教会員約700人の大教会です。次に牧師館に移動、夫人が用意してくださったインドネシアのお料理をいただきながらしばしお交わりの時を過ごしました。

当地では昔、バリのクリスチャンによるインドネシア宣教師殺害事件以来、オランダ政府によっ

て48年間、キリスト教が禁じられていましたが、1929年11月、ついに福音宣教が許されることとなりました。しかし初期の伝道者・クリスチャンのたどった道は茨にみちていました。当然クリスチャンになった元ヒンズー教徒とバリの聖なる土地を守ろうとするヒンズー教徒の間には摩擦がおき、1930年代には紛争が多発しました。初期のクリスチャンは貧しい農民出身者が多く耕地が必要でした。オランダ政府はクリスチャンを、ジャングルであったこの土地に移住させて、問題解決を図ろうとします。クリスチャンは蚊と野生動物が棲む原野の、与えられた400ヘクタールの土地を開墾し始めたのです。幾多の艱難と辛

苦に直面して、しかしクリスチャンたちは驚くべき力を発揮し、よく耐え、互いに助け合い、支え合って今日のプリンピンサリ村の基礎を築いたのでした。公的な記録は何もありませんが村の古老の話によれば1940年のイースターを彼らは家族共々に祝ったとのことでした。

彼らは、乳と蜜の流れる約束の土地カナンを与えられたイスラエルに自らの体験を擬え、移住を出エジプトと捉え、土地が与えられたことを神に感謝しました。第2世代が村外へ出るようになって、人口が一時激減しましたが、今はバリ観光ブームのおかげで人が戻りかけています。



養護施設にて

アユブ牧師の話によれば諸物価高騰のためこのキリスト教主義の小学校の授業料が値上がりして、何人かの子どもたちに学費支援の必要があるということでした。昼食後アユブ牧師夫妻に別れを告げ、近くにある小学校に行きましたが休みで森閑としていました。次に養護施設を訪ねました。施設長の女性の話聞き、物価が上がって経営が苦しいと訴えているようでしたが、子どもたちは屈託なく元気でとびまわっていました。この施設には、毎年関西の桃山学院大学から学生たちが、

夏休み中ワークキャンプに来て、子どもたちと遊んだり営繕を手伝ったりしているそうです。よい交わりが十数年も続いていると聞いて嬉しく思いました。

3日目、主の日です。朝7時からディアナプラホテルの礼拝に出席。千金先生が証しをされたあと、安海先生のインドネシア語の説教を千金先生が小声で同時通訳してくださいました。会衆がよく笑い、よい反応をすることには全く感心してしまいました。讚美歌の歌詞はパワーポイントでスクリーンに映し出されます。200人位入る会堂はほとんど満席でした。

午後2時から奥秋先生が奉仕しておられるバリ日本語キリスト者集会の礼拝に出席。建物は幼稚園のようなつくりで、この場所をドイツの教会から借りて礼拝を捧げているのです。千金先生が証しをされ、安海先生が説教をされました。礼拝の後、私たちもみんな一言ずつご挨拶。礼拝に集まって来られる方たちは女性が多く、遠く日本を離れてすでにこの地に永住を決めた方がほとんどのようでした。前日の奥秋夫人のお話が急に現実味を帯びてきました。母国語で説教が聴けるのは彼女たちにとって文字通りの福音に違いありません。(つづく)



司会をされる奥秋先生

【理事会報告】第152回理事会は2008年6月2日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2008年3・4月会計報告承認。「通信」第75号は5月20日発行。リーフレット改訂版は前回・前々回の作品を踏襲して新しい案を次回に提示。「通信」第76号の内容は決算・予算報告、ガーナ関係写真、インドネシア教育事情、インマヌエル中学校生徒の言葉(続)、宮澤理事のインドネシア旅行報告などで、8月中旬発行予定。木ノ内理事長、アンテオケ宣教会総会に出席。今年度第1回の里子の便り到着、稲葉夫人の翻訳で里親に配布済み。ミゾラムの英語教育への支援は今年度で終了。2008年9月のCEO会議はマレーシアで開催され、草野・竹澤理事が出席予定。

第153回理事会は2008年8月4日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2008年5・6月会計報告承認。2007年度決算及び監査報告承認。2008年度予算協議。項目・額等に改善要望あり、後日承認。リーフレット改訂文案は次回提示。ガーナへの植え付け用種子類のための緊急支援10万円受け取り報告。第76号原案の協議。数箇所変更の上8月末発行予定。9月末のCEO会議に出席する草野・竹澤理事と報告事項について協議。

第154回理事会は2008年10月27日(月)一ツ橋学士会館で開催予定。

<編集後記> 猛暑の日々、いかがお過ごしでいらっしゃいましたか。今号は、会計報告のほか写真の多い内容なので、その雰囲気を味わっていただきたく、高額になりますが理事会はカラーで印刷する決定をしました。ご感想をお聞かせください。さわやかな秋が来ますように。
鳥海百合子